第2章　平成17年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する山口県内の各遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる教育活動を行ってきた。より具体的に述べると、展示・公開活動としては当館展示室における常設展示の他に年に1～2回の企画展示を行うこと、教育活動としては年に1回の市民対象の公開授業を開催すること、また学内の希望者に対して考古資料の取り扱い等の技術指導を行うことなどである。その他にも、学内外のニーズに応じ、随時展示解説会や出前授業などを行っている。

平成17年度は、展示・公開活動として、常設展示の他に第21回企画展『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』を開催した。さらに当館収蔵資料の新たな展示活動として、吉田構内総合図書館入退館ゲート前にて「学術情報機構埋蔵文化財特別展」を開始した。この他に、平成5年度より途絶えていた資料館広報誌『山口大学埋蔵文化財資料館だより』(※1988年から1993年まで刊行)を、『埋蔵文化財資料館通信　てらこや埋文』と名称変更し、季刊での刊行を開始した。

社会教育活動としては、第5回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－弥生土器をつくってみよう2－』を開催した。この他に、山口市立平川小学校の依頼により、6年生児童を対象に地域の遺跡を紹介する出前授業を行った。

また、平成17年度より地域および他大学との連携をより強化するため、山口県博物館協会と国立大学博物館等協議会へ加入することとなった。国立大学法人化後、大学に蓄積されている学術知識・資料を広く社会に還元することがより強く求められている。当館も、学内での埋蔵文化財調査を基本業務とすることに変わりはないが、社会の要求を適切に判断し、内容ある活動を行っていきたい。

表6　埋蔵文化財資料館利用者の推移

年度	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17
利用者総数	355	267	191	200	516	142	555	573	913	669	808

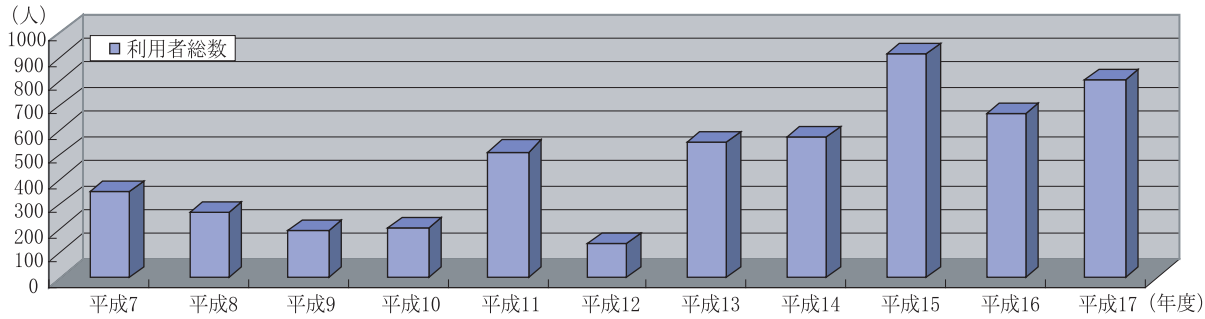
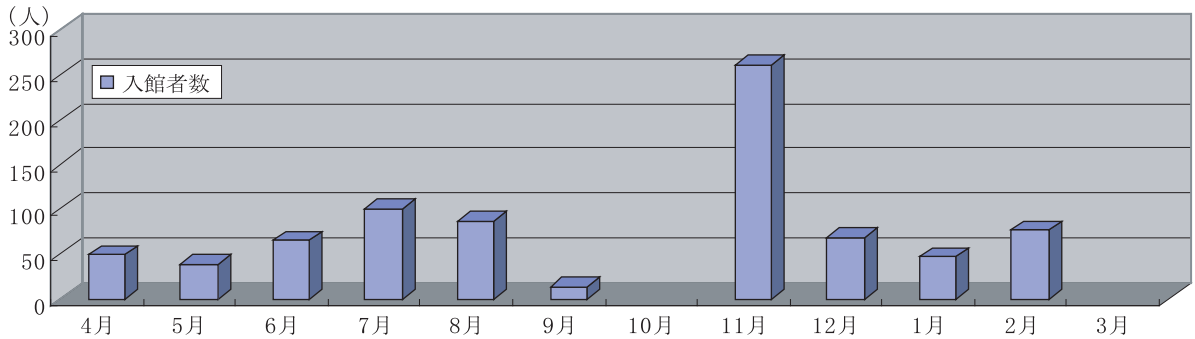


表7　平成17年度月別入館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	49	39	65	101	87	13	閉館	261	69	47	77	閉館



第1節　資料館における展示公開活動

第21回企画展『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』を開催

昭和63年度より開始し、第21回目を迎えた平成17年度の企画展では、「古墳」をテーマとして取り上げることとなり、平成17年11月5日から平成18年2月24日まで資料館展示室にて『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』展を開催した。

写真71　第21回企画展ポスター・展示図録

古墳は、数多ある埋蔵文化財の中でも、最も親しみのある遺跡の種別ではないだろうか。大多数の人は、「古墳」と聞くと、歴史教科書に掲載されている鍵穴形をした巨大な前方後円墳を簡単に思い浮かべることができるだろう。しかし、古墳から出土する様々な遺物を実際に見学・観察したことがある人は果たしてどの程度いるのだろうか。

実は、古墳とはそれほど特殊な遺跡ではなく、しばしば我々の身近にひっそりと埋もれているものである。現在、山口県内で確認されている古墳の総数は、推定地を含めると約400基を数える。これに未発見の物を加えると、おそらく1000基近い古墳が存在するものと推測される。

今回の企画展では、古墳をより身近な文化財として感じていただくため、「どのような墓を古墳と呼ぶのか」「古墳にはどのような形のものがあるのか」「古墳には何が副葬されているのか」「埴輪にはどのような種類があるのか」などの問題に対し、山口大学吉田構内が所在する吉田遺跡から出土した古墳時代関連の出土遺物と伴に、県内の著名な古墳から出土した実物資料を用いて、より具体的に古墳に関して学習できる展示を心がけた。

出展協力いただいたのは、茨木市教育委員会、宇部市教育委員会、下松市教育委員会、山陽小野田市教育委員会、藤井寺市教育委員会、柳井市教育委員会、(財)山口県ひとづくり財団山口県埋蔵文化財センターの7機関である。各位の協力により、山口県内の古墳関連資料の展示にとどまらず、日本列島に広く展開した古墳文化を視覚的に把握することが可能な展示を実現することができた。記して感謝の意を表する。

写真72　第21回企画展展示模様①

写真73　第21回企画展展示模様②

開催期間中454名の入館者を迎えたが、以下に当展示アンケート回答結果の概略を報告する。アンケート回収数は148枚であり、回収率は32.6パーセントであった。

(問)当館の展示をご覧になったのは初めてですか？　…回答数141

はい…121名　いいえ…20名

(問)今回の企画展にいらっしゃったきっかけは何ですか？　…回答数139

大学授業での見学…94名　館の前を通りかかった…17名　ポスター・ビラ…15名

知人から聞いた…11名　新聞・雑誌…4名

(問)一番印象に残った展示物は何ですか？　…回答数155(複数回答含む)

埴輪類…61名　玉類…38名　土器類…15名　銅鏡レプリカ…15名　鉄器類…7名

(問)内容についてご感想・ご質問がありましたら、お聞かせ下さい　…回答数88

・ほとんど山口のもので、身近にこういうものがあることがわかり、意外だった。

・大きな埴輪の類は特に文様がしっかり見え、古の人が実際に作っていたということが感じられ、感動した。

・小規模だったけど展示物の数も多く、壁に貼られた説明文・紹介文がとてもわかりやすく、充実した内容だ。

・埋葬されている方についての紹介も知りたかった。どのような人がどのように埋葬されていたかとか。

・展示品は良いが、照明が暗い。

・もっと広い展示室だったら良かった。寒かった。

入館者から届けられた声は、そのいずれもが今後の展示に参考となるものであった。埋蔵文化財資料館では、今後とも学内外多方面からの要望を基に、多彩な展示を企画する所存である。

第１回学術情報機構埋蔵文化財特別展『あしもとの遺跡シリーズ１　古代の吉田遺跡』を開催

平成17年度より、吉田構内総合図書館入退館ゲート前にて、当館所蔵の埋蔵文化財資料を常設展示することとなった。これは、当館展示室が狭小であることから、当館所蔵の埋蔵文化財資料を十分に公開することができないという問題に対し、解決策の一端として生じた企画である。展示体制は、当館と総合図書館の共催とし、展示シリーズ名には当館および図書館が所属する「学術情報機構」という名称を用いた。

第1回目となる今回は、吉田構内が所在する吉田遺跡の「古代」をテーマに、平成17年12月１日から平成18年３月24日の期間で資料展示を行った。当館設立以降、展示室以外で所蔵資料の常設展示を行うのは初の試みであり、展示・保管体制に様々な問題が生じることも予測されたが、開催期間中大きな問題も生じず、好評の内に終了し、次年度以降も継続して展示を行う運びとなった。

写真 74 『あしもとの遺跡シリーズ1　古代の吉田遺跡』①

写真 75 『あしもとの遺跡シリーズ1 古代の吉田遺跡』②

第2節　資料館における社会教育活動

第５回公開授業「古代人の知恵に挑戦！－弥生土器をつくってみよう2－」を開催

はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第5回目となる今年度の公開授業は、昨年度に引き続き吉田キャンパスなどから出土した弥生土器を観察し、それらを参考にして実際に自分で土器をつくってみるという内容で、平成16年12月４日（総合図書館会議室）、12月17・18日（埋蔵文化財資料館横）の延べ3回にわたり行った。今回参加していただいたのは、小学生4人、保護者・一般9人、総勢13人の皆様であった。以下で授業内容を報告する。

平成16年12月4日（土）～粘土から土器をつくってみよう！

午前の部では、土器の歴史や弥生土器について、プリントやスライドにより学習した後、埋蔵文化財資料館の企画展「古墳の世界～山口県の古墳を探る～」を見学した。

午後の部では、館員から土器の製作方法について説明を受け、出土品や館員が製作した土器を見て学習した後、実際に土器の製作を行った。粘土は昨年と同じく市販の野焼き用粘土を使用した。昨年度からの継続参加者もおられることもあり、比較的手慣れた手つきで土器を製作される方が目立った。できあがった作品はいずれも個性あふれるすばらしいものであった。

平成16年12月17日（土）・18日（日）～土器を焼いてみよう！

当日は直前まで風雨が強く、気温も約4度と冷え込む中であったが無事に授業を行うことができた。この日はまず、舞いぎり式による火おこしを体験した。この作業は年齢を問わず、参加者が夢中になって取り組んでいたのが印象的であった。この後、土器焼成を行った。土器焼成は、昨年度同様、弥生時代の土器の焼成方法と推測されている「覆い焼き」で行い、窯A（全体を泥で覆う方法[雲南式]）、窯B（上半部のみを覆う方法）の2基の窯をつくった。

上記の作業は自由参加としていたが、ほとんどの受講者が積極的に参加し、昨年度と同じ工程で作業を行い、午後12時30分に点火した。なお、今回は窯Aに温度計を設置し、温度変化を計測した。点火後、天候が次第に悪化し、午後9時頃からは雪が降り始め、気温も－1℃まで下降した。このため、急遽窯の上部をトタン板等で覆い対処した。土器焼成が危ぶまれたが、窯内の温度は順調に上昇し、点火から約9時間後の午後9時22分に最高温度811℃に達した。この後、窯内の温度は緩やかに下降し、点火から12時間30分後の翌18日午前1時には237℃、17時間30分後の午前6時には25℃まで下降して焼成は終了した。なお午前6時の気温は氷点下5℃、積雪は約7㎝であった。

12月18日（日）～土器の完成！

点火後、24時間30分後の18日午後1時から土器の取り出しを行った。挨拶と状況の説明の後、随時説明、記録を行いつつ参加者全員で窯の上部を壊して土器を取り上げた。悪天候のため、土器の状態が気がかりであったが、幸いほとんどの土器は割れることなく焼成されていた。最後に参加者全員で記念撮影を行い、無事に公開授業を終了することができた。

公開授業を終えて

今年度は昨年度の授業を踏まえて、火おこしをメニューに加えたほか、窯も2種類つくり、分かりやすい説明を心がけた。公開授業終了後のアンケートでは、「とても楽しく、来てよかった」、「公開授業を継続して欲しい」などの声が聞かれ、大変好評であった。当館では今回の授業と参加者からの声を踏まえ、

さらに充実した授業を行いたいと考えている。なお、今回の公開授業にあたっては、陶芸作家でもある学務課事務補佐員（エクステンションセンター）渡邊陽子氏から多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

授業風景

土器の製作

第５回公開授業ポスター

泥で藁の上を覆う

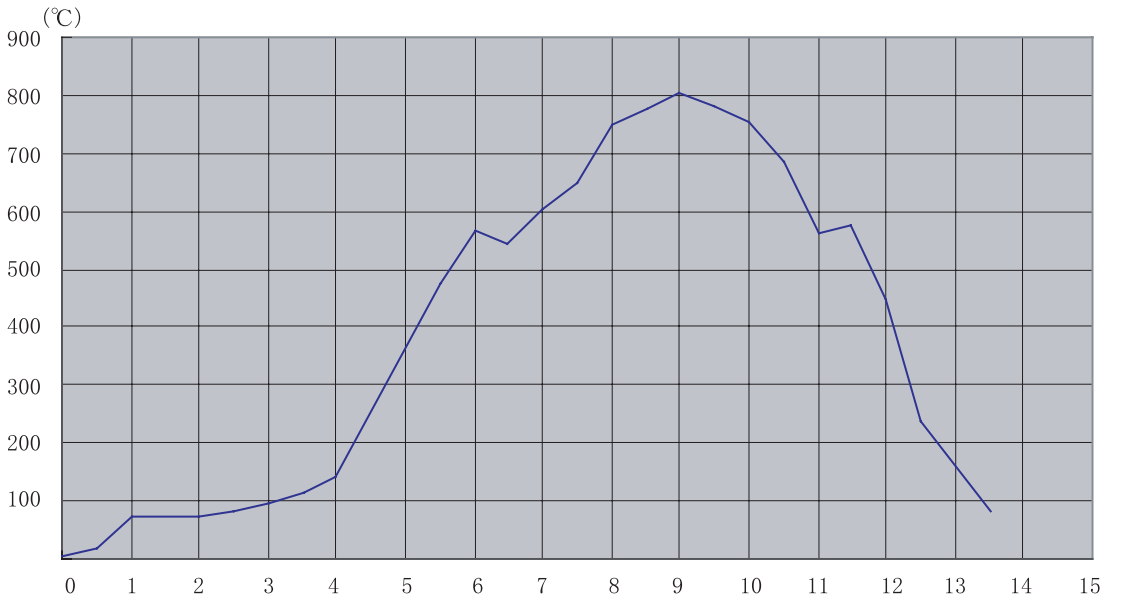
火おこし

焼成開始

土器の取り上げ

できあがった土器と参加者

写真76 第５回公開授業の模様



グラフ１ 窯Ａの温度変化

山口市立平川小学校で出前授業を実施

平成17年度初頭、山口市立平川小学校より、6年生児童約150名を対象に地域の遺跡や発掘調査に関する授業を開催して欲しいとの依頼があった。当館が所在する山口大学吉田構内は、山口市平川地区に位置するため、数年前より同様の依頼が継続的にもたらされている。小学生は、現在6学年の春から日本の歴史を学ぶカリキュラムとなっており、4月から5月にかけて弥生時代と古墳時代を学習するとのことであった。

授業は、平成17年5月17日に開催した。6年生児童全員が対象となるため、会場は小学校講堂が選択された。授業内容は、平川地区の遺跡を紹介するスライドショー『大昔の平川～平川には「遺跡」がいっぱい！～』を上映し、続いて遺跡の調査方法を学ぶスライドショー『遺跡の発掘調査ってなんだろう』を上映した。その後、持参した当館所蔵の土器資料の説明を行い、児童に直に土器に触れてもらった。

40分という短い時間の中に様々な内容を持たせた濃密な授業であったが、児童全員の興味が伝わり、熱気あふれる授業となった。授業の最後に児童からの質問を受け付けたが、中には「土器の形態変化と時代の変化とはどのように結びつくのか」といった専門的な知識を要する質問もあり、近い将来平川小学校から考古学者が誕生することを予感させられた。

埋蔵文化財資料館は、同様の依頼には今後とも可能な限り対応していく所存である。大学の地域連携が叫ばれる昨今ではあるが、地域の歴史を素材として自然発生的に学制を越えた連携が結ばれつつある、そのような印象を受けた1日であった。

写真 77　平川小学校6年生の児童

写真 78　発掘調査の方法を学ぶ

写真 79　本物の土器を観察

写真 80　熱中する児童たち